

旧川内町

大正6年
10・31 町制施行
◆初代町長に谷山成章氏
就任(第3代)

大正9年
10・1 国勢調査実施、人口1万
236人、世帯数2千
055戸

大正10年
2・ ◆『大正鉱山』銅価格暴落
で閉山
9・14 ◆第4代町長に岡田小八
郎氏就任

大正14年
3・ ◆『安部城鉱山』閉山
3・26 ◆第5代町長に坂部市太
郎氏就任

昭和2年
3・ ◆川内郵便局特設電話開通

昭和4年
◆大洪水のため浸水家屋
300余戸市中を発動機
船で往来

昭和5年
10・1 ◆国勢調査実施、人口6千
972人

昭和8年
4・3 ◆第6代町長に大類作太
郎氏就任

昭和10年
6・13 ◆第7代町長に中村熊寿
氏就任

昭和11年
8・ ◆川内耕地整理完工受益
水田192ヘクタール
11・10 ◆東北丸の上陸客を乗せ
た橋げたが転覆、7名
死亡

昭和15年
2・5 ◆第8代町長に岡田彦一
氏就任
10・3 ◆低気圧暴風雨のため、海
水による流出倒壊家屋30
戸、屋根破損家屋270
戸、漁船流出16隻



昭和12年
11・10 ◆第9代町長に工藤正輔
氏就任

昭和14年
9・ ◆『川内橋』(永久橋)完成
9・23 ◆第10代町長に菊池亮氏
就任

昭和16年
4・ ◆川内警防団発足、団長
に菊池亮氏就任
4・28 ◆第11代町長に高清水栄
助氏就任

昭和18年
10・1 ◆国勢調査実施、人口
7千852人

昭和21年
4・15 ◆第12代町長に中村熊寿
氏就任

昭和22年
9・ ◆『下北省営自動車』田名
部〜川内間が開通
10・ ◆川内町国民健康保険組
合直営診療所開設

昭和25年
10・20 ◆第13代町長に沢田惣之
助氏就任

昭和27年
6・ ◆小学校食糧不足のため
9日間臨時休校
4・5 ◆第14代町長に斉藤才吉
氏就任

昭和28年
11・10 ◆第9代町長に工藤正輔
氏就任

昭和30年
9・ ◆『川内橋』(永久橋)完成
9・23 ◆第10代町長に菊池亮氏
就任

昭和32年
4・ ◆川内警防団発足、団長
に菊池亮氏就任
4・28 ◆第11代町長に高清水栄
助氏就任

昭和33年
10・1 ◆国勢調査実施、人口9千
654人

昭和35年
10・1 ◆国勢調査実施、人口9千
654人

昭和37年
4・26 ◆第18代町長に山内啓助
氏就任

昭和38年
9・ ◆『野平道路』開通

昭和39年
5・ ◆チャイム時報機完成

昭和40年
4・1 ◆『第二川内小学校』創立
9・ ◆『中畑吊橋』完成

昭和42年
4・ ◆川内町出稼者協会発足、
会員700名

昭和43年
5・16 ◆十勝沖地震により商店
等に被害

昭和44年
7・1 ◆『エヒ子保育園』開設
8・ ◆『第一川内小学校』(鉄
筋校舎)落成

昭和45年
11・ ◆県道『かもしかりん』
開通

昭和46年
10・ ◆消防庁舎(鉄骨)完成
◆第一川内小学校体育館
においてNHK民謡歳
時記公開録音

昭和47年
◆『林業研修センター』完成
12・26 ◆『サケ・マス孵化場』八
木沢地区に完成

昭和48年
3・ ◆無線放送施設完成
3・17 ◆佐井村との境界確定

昭和49年
4・1 ◆『オーダーソーイング川
内工場』開所
9・13 ◆『宇賀焼』命名

昭和50年
10・ ◆『ほのぼの』宅配かわう
ち『第1便発送

昭和51年
12・ ◆『林業研修センター』完成
12・26 ◆『サケ・マス孵化場』八
木沢地区に完成

昭和52年
3・ ◆無線放送施設完成
3・17 ◆佐井村との境界確定

昭和53年
4・1 ◆『オーダーソーイング川
内工場』開所
9・13 ◆『宇賀焼』命名

昭和54年
10・ ◆『ほのぼの』宅配かわう
ち『第1便発送

昭和55年
12・ ◆『林業研修センター』完成
12・26 ◆『サケ・マス孵化場』八
木沢地区に完成

昭和56年
3・ ◆無線放送施設完成
3・17 ◆佐井村との境界確定

昭和57年
4・1 ◆『オーダーソーイング川
内工場』開所
9・13 ◆『宇賀焼』命名

昭和58年
10・ ◆『ほのぼの』宅配かわう
ち『第1便発送

昭和59年
12・ ◆『林業研修センター』完成
12・26 ◆『サケ・マス孵化場』八
木沢地区に完成

昭和60年
3・ ◆無線放送施設完成
3・17 ◆佐井村との境界確定





昭和30年当時の校舎

- 昭和9年**
 - 5・1 ◆町制施行
 - 5・ ◆初代町長に森又四郎氏就任
- 昭和10年**
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千093人
 - 12・1 ◆『電信電話取扱所』開設
- 昭和11年**
 - 4・ ◆第2代町長に伊藤金治氏就任
- 昭和12年**
 - 12・ ◆第3代町長に佐藤虎次郎氏就任

旧大畑町

- 昭和14年**
 - 9・ ◆大畑漁港稀有のイカ大漁
 - 12・6 ◆国鉄『大畑線』開通
- 昭和15年**
 - 4・ ◆三階釜山をはじめ郡内各町村に釜山を操業し活発化
 - 8・28 ◆大暴風雨により、大畑橋流失
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千579人
- 昭和16年**
 - 4・ ◆第4代町長に笹沢善八氏就任
- 昭和17年**
 - 9・27 ◆『林道小目名橋』完成開通式挙行
- 昭和18年**
 - 7・20 ◆『正津川郵便局』開局
- 昭和19年**
 - 4・1 ◆『日本医療団大畑病院』開院
- 昭和20年**
 - ◆『役場庁舎』新築落成、庚申堂1番地から新町130番地へ移転
 - 8・15 ◆『新大畑橋』竣工、渡初式・祝宴は、天皇陛下の終戦に関する玉音が伝わり、

- 昭和21年**
 - 2・ ◆第5代町長に菊池桑吾氏就任
- 昭和22年**
 - 4・1 ◆『大畑中学校』開校
 - 4・ ◆第6代町長に大竹淳氏就任
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万1千139人
- 昭和23年**
 - 6・22 ◆大畑小学校を借用し『定時制高校』開校、入学者131名
- 昭和25年**
 - 2・ ◆第7代町長に菊池察明氏就任



湊内のイカ荷あげ風景

- 昭和27年**
 - 8・30 ◆『大畑町公民館』新築（現下北ハイヤー）落成式・開館式挙行
- 昭和28年**
 - 6・10 ◆葉研温泉地区『県立自然公園』に指定
- 昭和30年**
 - 4・12 ◆『正津川中学校』開校
 - 8・ ◆『八油工場』建設
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万3千566人
- 昭和33年**
 - 2・ ◆第8代町長に菊池桑吾氏就任
 - 11・ ◆『下大畑橋』完成
- 昭和34年**
 - 10・3 ◆木野部峠『新県道』開通
 - 11・14 ◆大畑港東防波堤灯台竣工、点灯
- 昭和35年**
 - 2・25 ◆国鉄『大湊・大畑線』に気動車が運行
 - 5・15 ◆『大畑漁業用海岸局（無線局）』開局
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万3千172人



昭和30年頃の大畑漁港



川内川溪谷遊歩道

- 平成3年**
 - 1・ ◆『石倉公民館』落成
 - 10・1 ◆廃止代替バス路線が川内く湯野川間で開通
 - 12・18 ◆『銀杏木橋』完成
 - ◆『銀杏木バイパス』完成
- 平成4年**
 - 4・29 ◆『川内川溪谷遊歩道』完成
 - 7・1 ◆川内町一般廃棄物最終処分場完成
 - 10・ ◆『北の川柳の町』をめざし、大滝小公園に川柳碑10基建立



野平高原交流センター

- 平成5年**
 - 3・ ◆『川内町ヒバハウス』完成
 - 9・1 ◆『野平高原交流センター』オープン
- 平成6年**
 - 9・3 ◆『川内ダム』完成
 - 5・25 ◆道の駅に『かわうち湖野平高原交流センター』が指定
- 平成7年**
 - 3・ ◆川内町出身ボクシング日本Jrミドル級チャンピオン上山仁選手、20連続防衛の日本新を樹立し引退
 - 4・1 ◆ふれあいスポーツパーク『川内球場』完成

- 平成8年**
 - 10・26 ◆『桜川小学校新校舎』完成
- 平成9年**
 - 5・24 ◆『川内橋』完成
- 平成10年**
 - 4・1 ◆『川内町斎場』完成
 - 6・21 ◆川内中男子バレーボール部が下北中体連5連覇達成
- 平成11年**
 - 1・22 ◆川内八幡宮例大祭の『山車』が青森県民俗文化財に指定
 - 3・31 ◆『煙中学校』閉校
 - 7・30 ◆『川内町史』一部刊行
- 平成12年**
 - 3・31 ◆『煙小学校』、『湯野川小学校』閉校
 - 8・ ◆夏の甲子園大会で川内町出身の小濱巧聖選手・野里明人選手所属、青森県代表光星学院高へスト4進出
 - 10・1 ◆『川内町浄化センター』完成、公共下水道一部供用開始
 - ◆国勢調査実施、人口5千747人

- 平成13年**
 - 7・19 ◆『かわうちマリッピーチ』一部完成
- 平成14年**
 - 10・1 ◆下北初『脳ドック検診』川内病院で開始
- 平成15年**
 - 3・26 ◆『川内町商工会館』完成
 - 3・31 ◆『戸沢小学校』閉校
 - 4・1 ◆『まちの駅かわうち』完成
 - 7・27 ◆『第26回青空フェスティバル』最後の町民大運動



かわうちマリッピーチ

- 平成16年**
 - 5・7 ◆交通死亡事故ゼロ4000日達成
 - 8・1 ◆川内町役場『新庁舎』完成
- 平成17年**
 - 3・14 ◆むつ市・大畑町・脇野沢村と合併
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口5千117人



合併し、むつ市川内庁舎に

- 12・9 ◆『大畑町社会福祉協議会』結成
- 昭和51年
 - 4・8 ◆『大畑統合中学校』開校、スクールバスを正津川地区、佐助川地区に運行
 - 10・1 ◆『学校給食センター』完成、町内全小中学校が一斉に給食開始
 - 11 ◆『小目名生活改善センター』完成
- 昭和52年
 - 11・30 ◆『町営住宅』2棟外山地区に完成
- 昭和53年
 - 11・30 ◆木野部、関根橋に『生活改善センター』完成
- 昭和54年
 - 2・11 ◆北海道『標津町』と友好都市盟約締結
- 昭和55年
 - 4・1 ◆『県立下北少年自然の家』開所
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万2千328人
 - 12 ◆『滝沢地区にスキー場開設』
- 昭和56年
 - 4・7 ◆『大畑高校』独立昇格入学式挙行



- 昭和57年
 - 2 ◆『第11代町長に畑中一氏就任』
- 昭和58年
 - 11・20 ◆『大畑郵便局』完成、落成式挙行
- 昭和59年
 - 5・1 ◆町制施行50周年記念式典挙行
 - 8・23 ◆『大畑小学校』校舎完成、入学式挙行
- 昭和60年
 - 2・28 ◆大畑小学校『体育館』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万1千708人
 - 12・20 ◆『浄水場移転事業』完了、滝沢から小目名赤坂地区へ



- 昭和61年
 - 8・10 ◆『特産物活性化センター』完成、商工会事務局が同センターに移転
- 昭和62年
 - 3・27 ◆『清掃センター』ごみ焼却場』完成
 - 7・31 ◆『国道279号大畑バイパス』開通
- 平成2年
 - 3・11 ◆『正津川小学校』総ヒバ造り新校舎完成
 - 9・26 ◆都市計画道路『3・3・1号上野線』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万084人
- 平成5年
 - 3・24 ◆『一般廃棄物最終処分場』完成
 - 10 ◆『第12代町長に川端一義氏就任』
- 平成6年
 - 3・20 ◆『二枚橋小学校』新校舎完成
 - 3・24 ◆『大畑町斎場』完成
 - 5・1 ◆『町民プール』完成
- 平成7年
 - 3・31 ◆『中島児童館』完成
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千874人

- 昭和36年
 - 12・27 ◆『大畑町上水道』認可
- 昭和37年
 - 8・27 ◆『消防庁舎』新築落成
 - 9・1 ◆上水道工事着工
- 昭和38年
 - 9・1 ◆薬研間定期バス運行開始
 - 11・1 ◆町章制定
 - 12 ◆『農業気象観測所』設置
- 昭和39年
 - 5・30 ◆『上水道』竣工
 - 11・22 ◆『魚獲物共同荷捌所』落成式挙行
 - 12・4 ◆『大畑町塵芥焼却場』完成
- 昭和40年
 - 3・31 ◆『青森県水産試験場大畑分場』廃止

- 昭和41年
 - 2 ◆『第9代町長に村田幸次郎氏就任』
 - 3・30 ◆都市計画事業、新町植医院と本町松本商店間町道整備
 - 4・1 ◆『東北大学考古学教室』二枚橋遺跡』発掘
 - 5・10 ◆『中島児童館』開館
- 昭和42年
 - 5・20 ◆『広報』おおはた』創刊号発行
 - 6・7 ◆『大畑農業協同組合』設立
 - 12・1 ◆『町立大畑病院』新築完成
- 昭和43年
 - 3・31 ◆中島児童館前庭に『児童公園』完成
 - 5・16 ◆十勝沖地震発生（M7.9）、国鉄大畑線の不通等被害甚大
 - 7・22 ◆『下北半島国定公園』に指定
 - 10・30 ◆『正津川児童館』完成
- 昭和44年
 - 8・24 ◆台風九号により上大畑橋流失
 - 9・15 ◆台風九号により山車の合同運行を中止
 - 12・30 ◆『大畑中央公民館』、『町民体育館』完成
- 昭和45年
 - 2 ◆『第10代町長に佐藤正太郎氏就任』
 - 4・1 ◆県道むつ大間線、『国道279号線』に昇格
 - 9・30 ◆『大畑町民憲章』制定
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口1万2千867人
- 昭和46年
 - 3・23 ◆薬研温泉郷、『国民保養温泉地』に指定
 - 4・1 ◆『一部事務組合下北医療センター』発足
 - 6・5 ◆『上大畑橋』完成式挙行

- 昭和47年
 - 11 ◆『宮浦墓地と関根橋間』根橋農免道路』完成
 - 12・20 ◆『正津川地区公民館』完成
- 昭和48年
 - 1・10 ◆『有線放送施設』完成
 - 3・7 ◆大畑消防署に救急車配置
 - 6・29 ◆薬研地区『国設野営場』開設
- 昭和49年
 - 3・27 ◆小目名『ひばの子森林警備隊』消防庁長官賞受賞
 - 5・12 ◆下北初の『歩行者天国』実施
 - 11・20 ◆『二枚橋地区公民館』完成
 - 11・22 ◆大畑町都市計画街路決定
- 昭和50年
 - 4・4 ◆『中央保育所』完成
 - 5・10 ◆『孫次郎間分館』完成
 - 11 ◆『赤川へき地保健福祉館』完成
- 昭和51年
 - 9・1 ◆第4次『大畑漁港』修築事業、『大畑町営魚市場』竣工祝賀式挙行
 - 10・10 ◆5次漁港修築事業起工式挙行



- 平成9年
 - 7・12 ◆東北初の『近自然河川工法』による川づくり開始
- 平成12年
 - 7 ◆『下水道工事開始』
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口9千159人
- 平成13年
 - 3・31 ◆『下北交通大畑線』鉄路廃止

- 平成17年
 - 3・14 ◆むつ市、川内町、脇野沢村と合併
 - 10・1 ◆国勢調査実施、人口8千418人
- 平成18年
 - 10 ◆『第13代町長に木下千代治氏就任』

旧脇野沢村

季節分校」開設

明治25年

明治22年

4・1 ◆町村制施行、『脇野沢村』として脇野沢村と小沢村が合併

6・14 ◆村役場を現在の悦心院前に設置、初代村長に遠藤輔氏就任

明治23年

12 ◆戸数270戸、人口1千762人

◆鱈の漁獲量17万9千貫
◆九艘泊で、鱈の建網の部落経営開始

明治24年

4・9 ◆『脇野沢尋常小学校蛸田



村制施行当時の役場

大湊間の定期航路を蒸気船で開設

明治32年

10・7 ◆脇野沢に74.5mmの豪雨、稲の流失などで被害

明治33年

◆本村に赤痢が蔓延、42人の患者が発生
◆脇野沢郵便局で小包郵便を取り扱う

明治34年

4 ◆滝山分教室を『脇野沢尋常高等小学校滝山分教室』と改称

明治35年

3 ◆小沢尋常高等小学校、寄付金700円をもって稲平に校地を移転、9月に校舎完成

明治36年

4・28 ◆『脇野沢村漁業組合』設立

明治37年

◆日露戦争（明治38年）脇野沢村から10人が従軍、戦死者5人をだす

明治38年

◆陸奥湾航路に『陸奥丸』（100トン）、大湊と青森間を一日一往復で就航

明治41年

2 ◆第4代村長に村木謙造氏就任

4・1 ◆九艘泊分教室、『脇野沢尋常高等小学校九艘泊分教室』と改称

明治42年

11 ◆第5代村長に相馬肅一郎氏就任

12 ◆『滝山小学校』滝山に新築

明治43年

4・6 ◆本村港町で出火、37戸が焼失
◆『在郷軍人会脇野沢分会』会員約170人で結成

明治44年

1 ◆この年より、大正3年頃まで鱈漁が不振、漁師の生活困窮により、税金滞納で差押多数

3 ◆第6代村長に吉川吉三氏就任

4・6 ◆本村で出火、39戸が焼失

大正元年

12月末 ◆戸数270戸、人口1千762人

大正3年

12月末 ◆戸数334戸、人口2千443人



イワシ千し風景

大正4年

4 ◆『九艘泊分教室』校舎を新築

6・11 ◆第7代村長に山本聡氏就任

◆九艘泊の榑引岩男氏が猪口網を導入、イワシ定置網漁開始

大正6年

3・7 ◆第8代村長に寺山平吉氏就任

大正8年

2 ◆『脇野沢青年団・脇野沢村処女会』設置、脇野沢小学校内に事務所置く

4 ◆脇野沢尋常高等小学校に『実業補習学校』併設

7・15 ◆『県立大湊高等学校定時制課脇野沢分校』開校

昭和25年

4 ◆滝山分校、『村立滝山小学校』として独立

10・1 ◆国勢調査実施、人口4千583人

昭和26年

4・1 ◆九艘泊分校、『村立九艘泊小学校』として独立

◆脇野沢中学校小沢分校、『村立小沢中学校』として独立

11 ◆『脇野沢中学校』、瀬野川目に校舎新築

昭和27年

4・1 ◆脇野沢中学校九艘泊分校が『村立九艘泊中学校』、脇野沢中学校滝山分校が『村立滝山中学校』に

昭和28年

4・1 ◆旧脇野沢中学校校舎、『大湊高校脇野沢分校』の専用校舎に

昭和29年

4 ◆脇野沢中学校『体育館』落成

昭和30年

7・24 ◆下北駅伝で優勝

昭和23年

5・26 ◆第14代村長に川岸伝吉氏就任

昭和22年

4・7 ◆立候補選挙制の村民投票、第13代村長に川岸謙吉氏就任

10・27 ◆蛸田季節分校、通年制の『脇野沢小学校蛸田分校』に

◆滝山・源藤城・寄浪・蛸田・九艘泊に送電、電灯がつく

昭和20年

2・23 ◆第12代村長に大間吉郎氏就任

12月末 ◆戸数555戸、人口3千631人

昭和19年

12・15 ◆鱈豊漁、1日15万尾の水揚げを記録、この年百万尾の水揚げを記録、鱈景気にわく全村民の寄付により、大日本帝国に海軍機を寄付

昭和18年

9・15 ◆田名部と脇野沢間に国鉄バス開通

昭和17年

◆川内と脇野沢間の道路が県道に昇格

昭和15年

12・15 ◆水揚げを記録、この年百万尾の水揚げを記録、鱈景気にわく全村民の寄付により、大日本帝国に海軍機を寄付

昭和14年

9・2 ◆第11代村長に高松勘次郎氏就任

昭和13年

12・15 ◆『脇野沢尋常高等小学校』校舎、木造2階建てで桂沢に新築

昭和10年

10 ◆電話設置

昭和9年

4・18 ◆本村下町から出火、清水町・下町・本町・谷地町・上町・浜町の153戸を全焼する

昭和8年

12 ◆鱈大々漁、水揚量250万尾以上、翌年2月にかけて、浦田部落からの脇野沢への出稼ぎ盛んに



発足した消防団『女子応援隊』

昭和3年

9・30 ◆源藤城で出火、損害7千円

昭和5年

7 ◆『川内営林署脇野沢』に軌道を敷設

昭和6年

5 ◆小沢と九艘泊で、季節出稼ぎ対策として、消防団に『女子応援隊』発足

8 ◆下北初の自動車ポンプ設置

昭和8年

12 ◆鱈大々漁、水揚量250万尾以上、翌年2月にかけて、浦田部落からの脇野沢への出稼ぎ盛んに

11 ◆『小沢小学校』新校舎落成

9・2 ◆第10代村長に川岸謙吉氏就任

昭和2年

9・3 ◆田名部・大奥（大間町）脇野沢に気象観測所設置

大正15年

12月末 ◆戸数412戸、人口2千564人

大正14年

12・13 ◆本村の加藤喜代治氏が住宅新築中に、地中より『アイヌの腰刀』発見

大正13年

7・6 ◆第9代村長に佐藤熊次郎氏就任

大正12年

1・12 ◆下北の猿、『天然記念物』として保存決定

大正11年

1 ◆『脇野沢消防組』を組織
本村・小沢・瀬野・新井田に電灯設置、川内安部城鉱山水力発電より送電

大正10年

10 ◆『脇野沢公立消防団』を本村に組織

大正10年

12月末 ◆戸数345戸、人口2千508人



蟹田～脇野沢間カーフェリー就航

- 9・27 ◆ 消防分署に救急車配置
村のシンボルといえる
鯛島の尾部が崩落
- 昭和55年**
 - 4・1 ◆ 行政連絡員設置
 - 4・10 ◆ 蟹田く脇野沢間、カーフェリー就航
 - 6・4 ◆ 田ノ頭地区で山火発生
 - 9・3 ◆ 第5分団、消防操法大会小型ポンプの部で優勝
 - 9・20 ◆ 『総合中学校校舎』完成
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千739人
- 昭和56年**
 - 4・1 ◆ 『脇野沢中学校』として、脇野沢・小沢・滝山・九艘泊の4中学校が統合し完全給食スタート

- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千486人
- 昭和60年**
 - 3 ◆ 七引地区にバンガロー5棟完成
 - ◆ 貝崎園地にバンガロー4棟完成
- 昭和61年**
 - 6・9 ◆ リフレッシュセンター『鱈の里』完成
- 昭和62年**
 - 7・12 ◆ 『夢の海中号』就航
 - ◆ 『木材工芸センター』完成
- 昭和63年**
 - 4 ◆ 『交流センター』落成
 - 6・23 ◆ 高速旅客船『ほくと』就航

- 2・19 ◆ 『いのししの館』落成
- 平成7年**
 - 3・31 ◆ 脇野沢幼稚園廃園
- 平成9年**
 - 1・18 ◆ 交通死亡事故ゼロ2千500日を達成
 - 7 ◆ 『焼き干しラーメン』販売開始
- 平成10年**
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千019人
- 平成12年**
 - 5 ◆ 『水産加工センター』落成
 - ◆ 『マリナーハウス』落成
 - ◆ 『猿の住む海辺公園』落成
- 平成14年**
 - 4 ◆ 『三収集業務を民間委託』滝山小学校創立百周年
- 平成15年**
 - 2・23 ◆ 九艘泊小学校閉校式
 - 3・2 ◆ 滝山小学校閉校式
 - 3・23 ◆ 小沢小学校閉校式



高速船『ほくと』就航

- 6・13 ◆ 村制施行100周年記念式典、祝賀会事業実施
- ◆ 『夢の平成号』就航
- 平成2年**
 - 4 ◆ 『海づり公園』落成
- 平成4年**
 - 7・9 ◆ 第17代村長に山崎隆一氏就任
- 平成6年**
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千202人
- 平成12年**
 - 2・1 ◆ 『脇野沢村高齢者福祉施設』業務委託開始
- 平成14年**
 - 4・1 ◆ 脇野沢村特別養護老人ホーム業務委託開始
- 平成15年**
 - 2・23 ◆ 九艘泊小学校閉校式
 - 3・2 ◆ 滝山小学校閉校式
 - 3・23 ◆ 小沢小学校閉校式



合併し、むつ市脇野沢庁舎に

- 3・24 ◆ 『むつ下北地域任意合併協議会』に参加
- 4・1 ◆ 『脇野沢統合小学校』開校
- 平成16年**
 - 5・20 ◆ 『地域交流センター』建設開始
- 平成17年**
 - 3・6 ◆ 市町村合併により、閉村式挙行
 - 3・14 ◆ むつ市、川内町、大畑町と合併
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口2千280人

- 7 ◆ 村立小沢中学校『体育館兼講堂』新築落成
- 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千788人
- 昭和31年**
 - 4 ◆ 『国民健康保険事業』休止決定
 - 10・31 ◆ 防風高潮で床下浸水家屋25棟、道路決壊3か所
- 昭和32年**
 - 10・7 ◆ 豪雨で一時75・5mm、この頃から北海道への出稼ぎ続出
- 昭和34年**
 - 5・1 ◆ 第14代村長に山崎陸郎氏就任
 - 9・18 ◆ 台風14号で海岸が2mの高潮、住宅全半壊・流出216戸
- 昭和35年**
 - 1・25 ◆ 『脇野沢漁業協同組合婦人養殖研究会』結成
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千742人
- 昭和36年**
 - 8・28 ◆ 砂利トラックが児童など25人を乗せて転覆、児童10人助手1人死亡、2人重傷

- 6・2 ◆ 『吉戸バケツ運動』で男手不足の消防弱体化防止
- 7 ◆ 『火葬場』完成
- ◆ 人口が最高の5千158人に
- 昭和37年**
 - 9 ◆ 京都大学人類学グループ、『野猿調査』実施
- 昭和38年**
 - 3 ◆ 『脇野沢地区簡易水道施設』完成
 - 12・28 ◆ 九艘泊婦人会、野猿の餌付成功
- 昭和39年**
 - 3 ◆ 『小沢地区簡易水道』敷設
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千689人
- 昭和40年**
 - 3 ◆ 『九艘泊地区簡易水道敷設』
 - 11・11 ◆ 九艘泊周辺の『野ザル』、国の文化財保護委員会が天然記念物指定申請
 - 12 ◆ 『脇野沢村隔離病舎』新築落成
- 昭和41年**
 - 7 ◆ 『塵介焼却場』完成、村内全域収集開始
 - 7・22 ◆ 『下北半島国定公園』に指定

- 9 ◆ 『脇野沢小学校』新築落成
- 昭和44年**
 - 5 ◆ 東北大学考古学調査団、瀬野地区で弥生時代前期のたて穴住居跡発見
 - 8・23 ◆ 台風9号により全村大被害
- 昭和45年**
 - 10・25 ◆ 小沢道路側溝工事中、木箱に入った大量の古銭発見
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口4千205人
 - 11・11 ◆ 『北限の二ホンザル』、天然記念物に指定
 - ◆ 『新井田・寄浪・蛸田地』区簡易水道敷設



台風9号により全村大被害

- 12 ◆ 『有線放送施設』完成
- ◆ 村章および村旗制定
- 昭和46年**
 - 7 ◆ 『下北地域広域行政事務組合脇野沢分署』発足
 - 11 ◆ 『役場』、『村民体育館』完成
- 昭和47年**
 - 3 ◆ 『小沢地区生活福祉センター』完成
- 昭和48年**
 - 4 ◆ 脇野沢小学校創立百周年
 - 8 ◆ 『脇野沢消防分署庁舎』落成
- 昭和49年**
 - 3 ◆ 『小沢地区生活福祉センター』完成
- 昭和50年**
 - 10・1 ◆ 国勢調査実施、人口3千873人



天然記念物に指定された北限の二ホンザル

- 12 ◆ 『村営住宅』1号・2号棟竣工、以後、昭和50年に3・4号棟、51年に5・6号棟完成
- 6・25 ◆ 『下北海中公園』（鯛島・仏ヶ浦、自然環境保全審議会承認）
- 8 ◆ 脇野沢農協、旧むつ市内に通学する高校生対象に農協運営無料通学バス運行
- 昭和51年**
 - 4 ◆ 脇野沢小学校に『脇野沢幼稚園』併設
 - ◆ 小沢小学校創立百周年
- 昭和52年**
 - 3 ◆ 『脇野沢診療所』新築落成
 - 8・6 ◆ 滝山小中学校『プール』完成
 - ◆ 『三焼却場』完成
- 昭和53年**
 - 10 ◆ 幻の県道大間く川内く脇野沢線完成、『海峡ライン』と命名
- 昭和54年**
 - 5・1 ◆ 第16代村長に浜田昭三氏就任